

放射線技術部便り

～ vol. 15 ～

白十字病院 放射線技術部 広報誌



ブルックリン

病院移転に伴って、骨密度測定検査の方法が変わりました。今回は骨密度と関係が深い骨粗しょう症という病気と共に紹介します。

◎骨粗しょう症とは...

骨粗鬆(しょう)症とは、骨の量が減って骨が弱くなる病気です。骨粗しょう症になっても痛みはありませんが、転ぶなどのちょっとしたはずみで骨折しやすくなります。

骨折しやすい部位は、背骨(脊椎の圧迫骨折)や太ももの付け根の骨(大腿骨頸部)などがあります。これらの部位が骨折すると、大きな痛みを伴い歩けなくなったり介護が必要な状態になることがあるので注意が必要です。

骨粗しょう症になりやすい人は、

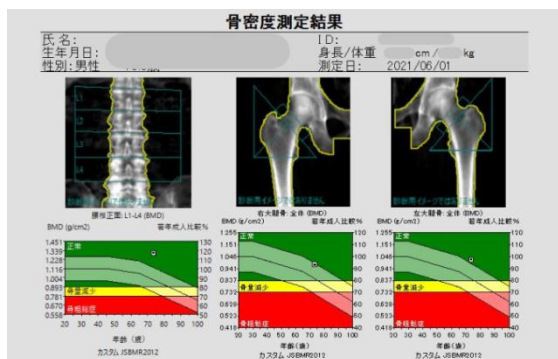
- ・高年齢者
- ・閉経後の女性
- ・運動不足
- ・喫煙者
- ・過度の飲酒
- ・家族に骨粗しょう症の方がいる

という特徴が挙げられます。

◎DXA法を用いて測定します

当院は、最新鋭の骨密度測定装置を設置し、DXA法を用いて骨粗しょう症の診断・予防・治療に取り組んでいます。

DXA(Dual energy X-ray Absorptiometry)法とは、2種類のX線を照射し骨と軟部組織の吸収率の差により骨密度を測定する方法です。骨折しやすい腰椎・両側大腿頸部の3カ所を撮影して測定しますので、時間は要しますが、より正確な結果が得られます。



↑測定結果でレポートが作成されます

適度な運動やカルシウムを多く摂るなど、日頃からの予防・対策が大事です！



MRIが3.0Tになりました

当院では4月よりMRI装置がPhilips社製 Ingenia Elition 3.0T(テスラ)に更新されました。Tとは磁力の単位を表す言葉で、3.0Tとは診断で使用できるMRI機器の中で最も強力な磁力を有しています。

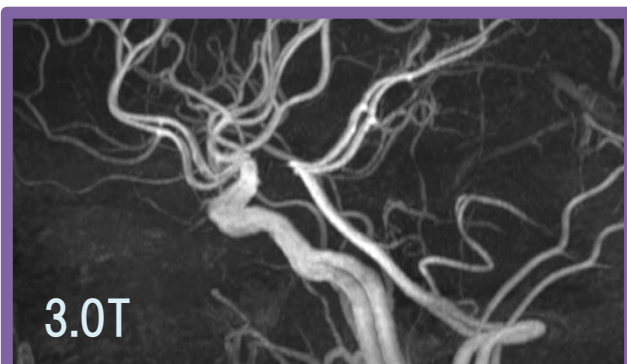
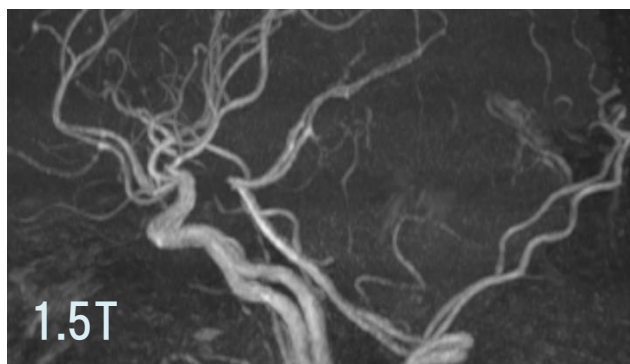
3.0Tになったことで従来の1.5Tに比べ、全身の微細な病変の高画質化を実現しました。

高解像度画像により、小さな異変もみえやすくなり、早期発見・早期治療に貢献できるようになりました。

造影剤を使用することなく、より末梢の血管の撮像ができるため腎機能が低下されている方でも検査中の身体への負担を軽減して高画質な画像を得ることができます。



頸椎(くび)の画像
高画質で鮮明な画像を撮影できるようになりました。



同じ患者さんの頭の血管画像

1.5T(左の写真)では見えなかった細い血管が3.0T(右の写真)では見えるようになっています。



金属の持込が一切できない検査となっております。
検査着へのお着替えをお願いすることがありますので
ご協力お願いします。

